

(5) 実践事例5 資料を比較させる活動を通じた学習問題づくり【単元の導入】

単元の指導計画

単元名

第6学年 江戸から東京へ「明治の国づくりを進めた人々」（全8時間）[東京書籍6年上]

単元の目標

江戸時代末期から、明治時代にかけての日本の変化に関心をもち、黒船来航、明治維新、文明開化、大日本帝国憲法発布について資料を基に調べる活動を通して、時代が変わる原因と欧米の文化を取り入れつつ欧米に負けないように近代化を進めてきたことが分かるとともに、選挙権の拡大にはどのような思いが込められているのかについて考えるようにする。

学習指導要領の内容（1）キ、ク

「黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること」及び「大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること」

単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代末期から明治時代への大きな変化に関心をもち、その原因や内容について意欲的に調べている。 選挙権が一部の人以上しか与えられていなかった歴史的背景や歴史を学ぶ意味について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の近代化の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 明治時代の主な事象について調べたことを根拠に、学習問題についての自分の考えを適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 明治の新しい世の中の様子について、絵図や年表、その他の資料を活用して、必要な情報を集め、読み取っている。 自分の考えの根拠となる必要な資料を選択したり、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 欧米に負けない国づくりのために、様々な諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解している。 自分たちの生活の歴史的背景を理解している。

単元の構造（全8時間）

（第1時）江戸時代と明治時代の違うところを見つけて、学習問題Ⅰをつくろう。

※「調べる」視点 「教育」「衣食住」「人々の楽しみ（文化）」「仕事」

（学習問題Ⅰ）江戸時代から明治時代には、どんなことが原因でどのように変化したのだろうか。

[知識や概念の習得]

※「調べる」視点 「身分」「考え方」「学問」「技術」「武力」「政治」

（第2時）江戸時代から「考え方」や「身分」はどのように変化したのか調べよう。

西洋の考え方を取り入れる。 人々は皆、平等という考え方が広まる。

身分制度は改められたが、差別は残った。

（第3時）江戸時代から明治時代に変わったきっかけを調べよう。

不平等条約を結び開国する。 外国（欧米）との力の差を痛感する。

外国からの圧力、若い武士や人々の不満、不信感から大政奉還する。

（第4時）江戸時代から「技術」「武力」の面ではどのように変化したのか調べよう。

欧米に学び、欧米に負けない国づくりを目指した。

諸改革（廃藩置県、富国強兵、殖産興業、地租改正、徴兵令）を行った。

（第5時）明治政府の改革に不満をもつ人々がいたのか調べよう。

武士の反乱が起こった。 武力から言論へ。 自由民権運動が広がった。

（第6時）「政治」の面ではどのように変化したのか調べよう。

大日本帝国憲法発布や国会開設 国会議員の選挙権が国民に（制限あり）

（第7時）学習問題Ⅰをまとめよう。

ペリーの来航がきっかけで、欧米に負けない経済力や軍事力をもつために明治政府は改革を行った。国民は、自分たちの意見も政治に取り入れてほしいと自由民権運動を進めたが、願いは十分に反映されなかった

疑問：なぜ、明治政府は国民の意見を取り入れようとしなかったのだろうか？

（第8時）学習問題Ⅱについて考えよう

（学習問題Ⅱ）なぜ、明治政府は限られた人にしか選挙権を与えなかったのだろうか。

[歴史を学ぶ意味を考える]

政府は思い通りの政治をしたかったので、選挙権を制限していた。

現在は国民の意見が反映されるような仕組みになったのだろうか。

↓現在の社会や3学期の学習への意欲付け

時代が変わる原因と欧米の文化を取り入れつつ欧米に負けないように近代化を進めてきたことが分かる。選挙権にはどのような思いが込められているのかについて考え続ける。

授業改善の視点（○）と取り入れた具体的な手立て

○複数の資料から「分かること」「考えられること」を基に、単元を貫く学習問題を児童と共につくる。

「つかむ」過程

- ① 資料の読み取りをさせる際に、複数の資料から読み取る例を1つ学級全体で行い、比較して共通点や相違点を見付けさせることで資料の読み取り方を学ばせる。
- ② これまでの学習を振り返らせ、時代が変わるきっかけや変わることに変化した項目を挙げさせ、それらを視点にして調べる見通しをもたせる。
- ③ 学んだ読み取り方を使って、複数の資料の読み取りを3人グループで行わせる。
- ④ 複数の資料から読み取った結果について、共通点を見付けさせたり、どんなことが考えられるかを予想させたりすることで、複数の資料を関連付けて分かったことや考えたことを表現できるようにする。
- ⑤ まだ調べていない項目に目を向けさせたり、児童の考えに問いかけや問い返しを行い、自分の考えが予想の段階であることに気付かせたりすることで、歴史的事象を調べたいという意欲を高めながら学習問題Ⅰを児童の言葉を使ってつくる。

「調べる」過程

- ① 「つかむ」過程で児童がもった追究意欲を大切にし、問題解決に向けて調べる視点をまだ調べていない項目の「考え方」「身分」「技術」「武力」「政治」にすることで、児童が「調べる」活動に取り組みやすいようにする。
- ② 毎時の振り返りの際、学習問題Ⅰに立ち戻り、ノートに考えを記述させることで、調べて分かったことを関連付けさせ、児童の学習問題Ⅰに対する総合的な考えへと導く。また、これにより、学習問題Ⅰの追究意欲を継続させる。

○学んだ時代背景を基に現在と比較し、考えをまとめる活動を取り入れる。（学習問題Ⅱの設定）

「考え・まとめる」過程

- ① 自由民権運動の高まりの中で、国民の願いが反映されているかどうかを問いかけ、制限された選挙権に目を向けさせる。現在の選挙権と比較し、「調べる」過程で調べたことや考えたことやこれまでの歴史学習で学んだことを基に、明治政府の考えを予想させることで、知識の定着と更なる思考力・判断力・表現力の育成をねらう。
- ② 単元の最後に、現在の事象と関連付けて考えさせることで、歴史の事象を自分のこととして捉え、社会に関わろうとする関心・意欲・態度の形成をねらう。